

神戸労働組合聯合團が、組合を工場主に認めしめんことを欲したるの情は此處に繰述を要せざるべし、即ち聯合團は團體確認運動を起すこととなり、七月四日午後七時より港川勸業館に於て烽火を舉げたり。

友愛會神戸聯合會主事代理堀義一氏の開會の辭に次で、同神戸聯合會長野倉萬治氏座長着席、川崎電工部青柿善一郎氏より川崎重役との第二回交渉顛末の報告の後、左の決議を爲す。

## 決 議

我等は神戸市の各工場主に對し労働組合の確認を要求す。

## 理 由

近時各地に頻發する労働争議の根源は從來資本家が労働者の合理的運動たる労働組合に對して不當なる壓迫と干渉を加へたる結果に外ならずと信す。故に資本家は此際速かに労働者の團結權を承認し以て労働組合の自然的成長を阻害せざる公正なる態度を採る事は我國の産業を振興せしむる上に於て緊切なるを痛感し茲に團體確認を要求するものなり。

更に賀川豊彦、久留弘三、須々木純一の三氏を交渉委員に指定し、左の八名を實行委員に推薦して八時閉會、次で演說會に移り大に氣勢を揚げたり。

實行委員造船労働組合宮内克讓、聯合會主務代理堀義一、神戸鐵工組合行政長藏、東神鐵工組合角田米吉、印刷工組合三谷幸吉、電氣工組合電正會青柿善一郎、神戸造船労働組合兵庫支部和田惣兵衛

## 聯合會長野倉万治

其夜推薦されたる交渉委員豊川豊彦、久留弘三、須々木純一の三氏及び野倉万治氏は五日右の決議文を提げて川崎、三菱、製鋼所を歴訪し交渉數時間に亘るものあり。先づ神戸製鋼所にて午前十時半三木、松田、松尾の三重役と面會、委員が決議文に左の覺書を添へて出せるに對し重役側は『重大な問題であるから輕々にお答えは能きない。一週間以後に於て何とかの御返辭に及ぼう』と回答す。交渉委員は左の覺書を手交するところあり。

## 書 覺

一、貴工場の労働者が他の労働團體に加入するの自由を認めて下さい。  
二、買工場に現在ある労働團體を確認して下さい。

附記 貴工場を外部の労働團體により壓迫しやうといふのではありませぬ御返事は一週間後に神戸労働組合聯合團に御送り下さい

更に委員は川崎造船所を訪問。永留、山本の二重役に面會、久留氏前夜の労働組合聯合大會の模様を報告し、決議文を朗讀す、重役は『そして御意見は？』と久留氏に問ひ久留氏賀川氏須々木氏の後に野倉氏と順次四名の意見を訊したる後永留重役は『折角であるが御要求の全部容れることが出来無い』と答へて決議文も押返せり。委員は『理由』をと迫りたりしが重役は理由を説明するに至らずして此會見は不調に終れり。午後四時委員の一行は三菱を訪問孕石造船所長、野口主計部長、岩崎職工課長等の重